あなたの「やってみたい」を応援します!!

ゆめこらぼ通信

第 32 号
平成26年8月1日
(隔月発行)

発行：西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ　〒188-0012　東京都西東京市南町 5-6-18 イングビル１階

NPO 市民活動団体「交流の集い」開催

6 月 28 日(土)に西東京市の NPO・市民活動団体が集まり、交流の集いが開催されました。当日はあいにくの天気でしたが、37 団体 44 名の多くの参加者がありました。講演会では、「ホールアース自然学校」事務局長・山崎宏氏に「活動パワーアップの秘訣！」と題し、カリスマ創設者の突然の引退後、残されたスタッフで団体を運営・維持していく上で苦労した点などを話していただきました。その後は「対話ラボ」松澤拓矢氏協力のもとワールドカフェ(リラックスした雰囲気の話し合い)で、お互いに組織運営で悩んでいることなどについて、各テーブルに分かれ話し合いました。みなさん色々な団体と触れ合い、活動のヒントを得られたようです。その後の懇談会では、西東京市の逸品に舌鼓を打ちながら思い思いに交流されていました。

▲皆さん共感された講演の模様

▲ワールドカフェで出された様々な意見

▲懇談会では和やかな雰囲気

◎◎ゆめこらぼ事業・活動紹介◎◎

ゆめサロン
私がしあわせを感じるとき

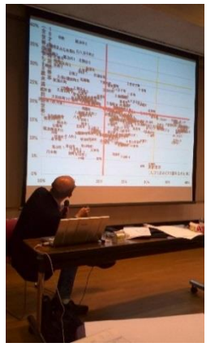
NPO 法人ラマーミトゥルの会代表の山崎シルヴァ氏をお迎えして 6 月 6 日(金)にゆめサロンを開催しました。開催日は猛烈な雨に見舞われ開催が危ぶまれましたが、6 名の熱心な方が出席されました。

はじめに写真でスリランカの活動の様子を見ながら説明をお聞きし、続いて山崎氏のプロフィールからスリランカの歴史、文化、宗教観など日本とスリランカの基本的な考え方の違いなどに話が及びました。皆が分かち合い助け合いながら生きているスリランカの背景には「足るを知る」という精神や隣人愛など宗教的な思想が日常生活に定着していることにあらためて驚かされました。私たち日本人にとって、見習うべきことがたくさんあると痛感しつつ和やかな雰囲気の中で興味深い話は尽きませんでした。

第4回 NPO 八王子会議
総働　in　八王子

「総働」をテーマに 6 月 7 日(土)に開催された第 4 回 NPO 八王子会議に参加しました。「総働」は、当日の基調講演者の川北秀人氏が代表を務める IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]が提唱する「多様な主体による協働」という協働の新しい定義です。

以前から少子高齢化が進む日本海側の市町村では、既に「総働」が始まっているそうです。高齢化が進んでいるからと言って、「高齢者の見守り」に福祉の予算や職員を割けなくなっています。島根県雲南市では縦割り予算の枠を超え、水道検針の委託による全戸訪問で見守りを実現しているとのこと。役割を分担して進める縦割りの仕組みでは会議ばかりか負担も増えます。多様な主体による「総働」で解決する必要性が強調されました。



八王子市の過去 20 年と今後 15 年の少子高齢化の状況を町ごとに予測・図示し、町ごとの特性に応じた対策を考えるべきとの説明で、「総働、待ったなし！」を感じた第 4 回 NPO 八王子会議でした。

行政職員と市民活動団体の懇談会

今年で第 5 回目となる行政職員と市民活動団体の懇談会を 7 月 18 日(金)に防災センター講座室で行いました。20 課 20 名の市職員と 21 団体 23 名の市民活動団体活動メンバーが参加しました。

西東京市第 2 次基本構想・基本計画の「みんなでつくるまちづくり(協働のまちづくりの推進)」をテーマに、オープンで自由な対話ができるようにワールドカフェ方式で懇談会は進められました。

参加者が 4、5 人でひとつのテーブルを囲み、相互に理解するために身振り手振りを交え真摯に向き合いながら、信頼を深めることができた実のある懇談会になりました。対話の最後に参加者全員が輪になり、それぞれの感想を共有し、行政と市民活動団体を繋ぐ橋渡しと相互の役割を考える貴重な一歩となりました。

府中市制施行 60 周年記念事業
市民協働推進シンポジウム

府中市制施行 60 周年を記念して、府中市と NPO 法人府中市民活動支援センター主催で 6 月 25 日(水)に開催された市民協働推進シンポジウムに参加しました。

基調講演は、コミュニティ・デザインで有名な山崎亮氏、studio-L 代表。「人と人がつながるまちづくり～コミュニティ・デザインとは～」と題して、日本各地で行ったまちづくりの中から、マンガの聖地としてのまちづくりに取り組む立川市と I ターン、J ターンに成功した海士町の事例を取り上げて話をされました。

コミュニティ・デザインは、行政が市民にやって欲しいことと市民がやりたいことのギャップを埋めて、結びつけることだそうです。そして、地域づくりは、市民のやりたいことを直接実現する「遠回りしない幸福論」と説いていました。

引き続いての府中市長とのトークセッションでは、「テーマ型コミュニティ」を今後どう作るかが大事との山崎氏の言葉が印象に残りました。

◆◆登録団体活動紹介◆◆

NPO 法人サポートハウス年輪
奇跡の脱出-3.11 のマリンホーム-

NPO 法人サポートハウス年輪が今年 20 周年を迎えて、6 月 1 日(日)に記念講演会「奇跡の脱出」－3.11 マリンホームーが開催され、東日本大震災時、特別養護老人ホーム赤井江マリンホームにおいて 144 名全員無事に避難することができたことが紹介されました。前年にチリ地震発生で避難していることなどのいくつかの偶然が重なって奇跡の脱出が実現できたことがよく分かりました。特に被災した際の対処は管理者と職員の機敏な動き、応用力（柔軟な介護の力）と決断力が大事ということが良く理解できました。講演の後半は避難後の対応と復興についてのお話でした。

会場には介護施設に関わっている方も多数見え、他の団体においても介護施設の危機管理や職員のマインドの持ち方を知る上では大いに役立つのではと思いました。

べいてぃ～ず
子どもが学校に通わなくなったときに

6 月 10 日(火)「べいてぃ～ず」主催の講演会が開催されました。講師は NPO 法人 D×P の共同代表である今井紀明氏。10 年前イラクで人質となり 9 日間拘束され、無事帰国はしたが待っていたのは、自己責任報道など批判にさらされる日々。辛い経験ではあったが、友人の支えにより現在の活動へと繋がっていきます。

不登校の原因は多種多様であり本人も周りも解らないことがあります。そして学校に通わないことにより学力の低下など家族も本人も不安がつのってしまいます。そうならないために子どもが小さいうちからできる事は、家族からの「助かるわ」「ありがとう」「素晴らしい」などの感謝の言葉と親子で雑談すること。そして、子どもとは過不足なく係る事が大切。これからもニート予防に努め一人ひとりの若者が自分の将来に希望を持てる社会を目指して活動を続けていきますと話され、小さなお子さんを抱えるお母さんたちは真剣に聞いていました。

あすなろ No.2
車いすダンス＆オールダンスフェスティバル

6 月 29 日(日)南町の「スポーツ文化交流センターきらっと」にて、西東京市車いすダンスサークル あすなろ NO.2 主催、第 14 回車いすダンス＆オールダンスフェスティバルが開催されました。

あすなろ NO.2 は、車椅子の生活をしている方々や高齢者の方々と一緒に、社交ダンスを通して、心の健康と会員相互の親睦を目的としています。

当日は年に一回のダンスフェスティバルに様々な団体が参加しました。第 1 部はコンテスト。第 2 部は車いすダンス大会。第 3 部はオールダンス大会。健常者同士のダンスでは見られないような独特の動きで、車いすの方と健常者のダンスが繰り広げられました。第 3 部では様々なジャンルのパフォーマンスが披露されました。障がいも世代も超えて皆さんで楽しめる一日となりました。

SAVE ザ 9 条･SAVE ザ憲法　西東京市民の会
歴史に学び、未来を志向する日本国憲法

本年 2 月に名称を「SAVE ザ 9 条・SAVE ザ憲法　西東京市民の会」に改めて、憲法を大切にする人たちの市民運動を活発に進めています。一連の活動として 6 月 28 日(土)、コール田無(多目的ホール)で「歴史に学び、未来を志向する日本国憲法」で落語風に語りながら大日本帝国憲法と比較し、改憲リスクを説明して多くの方が最後まで熱心に聴講していました。

弁士の八法亭みややっこ（弁護士：飯田美弥子）さんの博学で楽しい話に引き込まれて笑いと拍手の内に終わりました。会場も臨時席を設けるほど盛況で多くの人に憲法への関心を強く持たせることができたと感じました。

NPO 市民フェスティバル参加団体募集！

7 月 5 日(土)に NPO 市民フェスティバル第 1 回実行委員会を開催、今年度の NPO 市民フェスティバルは 11 月 22 日(土)にきらっとを会場に開催することが決定しました。他にも実行委員長の選出、実行委員会の開催予定(毎月第 2 土曜日)や「お父さんお帰りなさいパーティ」（通称おとぱ）の分科会設置が決まりました。

おとぱは、定年退職等で地元に戻って来る方々に地元の団体を紹介するものです。団体の活動をアピールする良い機会ですので､NPO や市民活動団体の方は奮ってご参加ください。参加希望の団体、おとぱに興味のある方は、ゆめこらぼまでぜひご連絡ください。

やってみませんか！避難所運営ゲーム

ゆめこらぼでは、田無スマイル大学実行委員会（代表：富沢木実氏）の協力のもと、昨年度から避難所運営ゲームを市内各所で開催しています。

今年度も市内 28 校の小中学校の校長先生方を対象に実施(下の写真)した他、栄小学校などの避難所運営協議会でも実施しました。

所要時間は約 2 時間のシミュレーション(模擬)ゲームではありますが、実施後のアンケートではいろんなことに気付かされた、とても有益だったといった感想を多くいただき、防災の観点だけでなく、地域コミュニティづくりの面でも役立つツールになっています。

避難所運営協議会はもちろん、自治会・町内会はじめ、この避難所運営ゲームをやってみたい方は、ゆめこらぼまでご連絡ください。

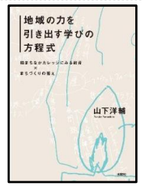
新たな登録団体＜2014 年 5 月～6 月＞

◆Dance Circle DANdelion（だんす さーくる だんでらいおん）
目的:ダンスを通じて、子どもの健全な身体の育成。

◆循環型地域社会研究会
目的：西東京市が東京大学付属農場を“よきパートナー”とし協働して活気溢れるまちづくりを行えるよう推進役を務める。

＜2014 年 6 月末現在で 118 団体になりました＞

みんなの本棚



地域の力を引き出す学びの方程式

柏まちなかカレッジにみる教育×まちづくりの答え

山下洋輔　著

焚き火ダイアログ、ドアマニアとまち歩き、デンマークの友人と教育を語る、鳥博士とまちなかバードウォッチング、民芸 meets モダン(柳宗悦～イームズ)、模擬裁判…裁判員裁判を体験しよう！、出会いの予感!?TANABATA サルサ☆ナイト、一見バラバラなテーマだが、全て千葉県柏市にある「柏まちなかカレッジ」の講座。柏まちなかカレッジは学びを通じ、人の輪が広がる学校です。専任講師をもたない、年間カリキュラムを立てない、固定費をかけない、法人格をとらない、やる気がなくなったときは解散する！という潔い戦略のもとに、地元のカフェ、美容室、花屋、古着屋との幸せな偶然(セレンディピティ)の出会いがあり、これまでのべ 100 以上、参加者 1500 名以上の講座が開かれました。

また、対話形式のまちづくりワークショップから生まれたアイディアが、社会課題解決につながるようにと「フューチャーセンター」を設立。中心人物の山下洋輔さんは「究極の目標はまちなかカレッジが自然消滅すること」と言う。住民の自然な対話から誰もがイキイキと暮らせるまちになること、この壮大な目標に向けて柏市のチャレンジは続いています。　（向台町在住　古林美香氏）

編集後記

梅雨の時期には、イベント開催日に突然、雨が降ることがあります。「交流の集い」もご多分に漏れず豪雨に見舞われましたが、皆様の熱心な意識で多数の参加者が集まりました。今後とも西東京市の NPO 活動を盛り上げていきましょう。

西東京市　市民協働推進センター　ゆめこらぼ
〒188-0012 西東京市南町 5-6-18 イングビル 1 階
Tel:042-497-6950　Fax:042-497-6951
E-mail:yumecollabo@ktd.biglobe.ne.jp
http://www.yumecollabo.jp/
ゆめこらぼ
モバイルページ
開館時間　午前 10 時～午後 9 時
休館日　毎週火曜日（祝日の場合は開館し次の平日が休館日）